

## 策定委員会等会議録

審議会等の名称	第2回甲州市商工業振興計画策定委員会
開催日時	平成29年9月13日(水) 15:30～17:30
開催場所	甲州市役所本庁舎1階 市民ギャラリー
公開・部分公開の区分	公開
出席者	澤伸恭、大久保親雄、林徳子、平塚明美、萩原弘基、長坂憲一、西海達彦、 古屋一彦、豊岡翠 (9人) 〔敬称略・五十音順〕
事務局	中村産業振興課長、林主査、雨宮主事、渡邊主事
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委員長あいさつ</li> <li>3 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 策定スケジュールの確認について</li> <li>(2) 事業者アンケート調査結果について</li> <li>(3) ワークショップの開催について</li> <li>(4) その他</li> </ol> </li> <li>4 閉会</li> </ol>
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事</p> <p>(1) 策定スケジュールの確認について</p> <p>○事務局 (開会の辞)</p> <p>○委員長 策定スケジュールの確認について、事務局より説明を求める。</p> <p>○事務局 3月の第1回目の策定委員会で予定をした日程に遅れが出ているが、アンケートの集計等に時間が掛かり第2回目の策定委員会が本日の開催となった。今後は、11月2日に第3回目の策定委員会開催する予定であり、12月6日に第4回目の策定委員会、来年3月に最後の策定委員会を予定している。ワークショップについては、9月20日、10月4日の2回開催予定である。現在、広報及びホームページにて募集を行っている。さらに、11月には若い方や学生の意見を聞く場を設け、高校生や大学生を対象としたワークショップを開催することを提案したい。11月2日の策定委員会では、ワークショップの内容を加味した中で、商工業振興計画の骨子をお示しさせていただきたい。年明けには市民意見公募(パブリックコメント)を行う予定で進めさせていただきたい。</p> <p>○委員長 スケジュールについてご意見、ご質問があればお伺いしたい。</p> <p>○委員 (異議なし。)</p> <p>(2) 事業者アンケート調査結果について</p> <p>○委員長 事業者アンケート調査結果について、事務局より説明を求める。</p> <p>○事務局 アンケート調査については、商工業振興計画策定の一環として、市内の個人事業主や商工会員847社を対象に2月から3月の間に調査を行った。回答数は326社であり、有効回収率は38.5%である。 (その他、アンケートの調査結果について資料3を用いて説明を行う。)</p>

- 委員長 事業者アンケート調査結果についてご意見、ご質問があればお伺いしたい。
- 委員 後継者問題については、どのように考えているか。
- 事務局 経営上の問題点では、従業員の高齢化、後継者の確保・事業承継、人材の育成についての項目が比較的上位にきている。今回の計画においてもかなりの割合を占めるものと考えている。
- 委員長 アンケート結果を踏まえての課題や注意していく点についてはどのように考えているか。
- 事務局 現状把握として、問題点等の掘り起こしを行った。市としてどのような支援をする必要があるのか参考にしていく。事業承継問題や空き店舗の活用であったり、低利の融資制度など力を入れるべき点が見えてきた。その部分を充実させていきたいと考えている。
- 委員 事業所の経営については、5年前の調査と比べ「横ばい」を選んだ方が増えており、10%超の減少については48%から28%下がっていることから景気が良くなっていると感じるが、前回の調査とどのように比較をしたらよいのか。
- 事務局 売上高が全体的に減っている結果ではある。また、市内の事業所数が減ってきている中で、このような結果が出ている。過去の結果とどのように比較するかは難しい。比較の仕方は質問によって異なる。
- 委員 5年前に比べると、飲食業組合員も減っており、組合としてのメリットも商工会に相談しながら考えているが、先が見えないのが現状である。塩山の飲食店では、勝沼の飲食店のようにワインで盛り上げていくというような軸がない。
- 委員 その他の意見でワイナリーばかり力を入れているという意見がある。特産品であるワインを市、県が中心となり補助しているが、ワイナリーとしての立場から言うと、ワインに偏っているという気持ちはある。勝沼だけでなく塩山もワイン産地にしたいという気持ちもある。
- 事務局 飲食店からは、ワインは単価が高く、管理が難しいとの声はあった。乾杯条例は、地場のものは地場で積極的に消費しようということが一番のポイントである。ワイナリーは地域内での消費について関心は高くないように感じる。そこを改善しようということから、ワインを飲む機会を増やして。ワイナリーの方々にも飲食店で単価を下げる方法を考えていただきたい。
- 委員 乾杯条例については強制感が強いと感じたが、飲食店にワインを置いていただいている店は増えてきている。
- 事務局 ワインは地域の特性であり、そこで注目が集まり、人が来て飲食店が栄えていくものだと考えている。
- 委員 小売業の立場からいうと、地元の人には買わない。アンケートについては、5割くらいの回答数がほしい。質問の量が多かった。景気は良くなっている気はしない。
- 委員 地域が活性化していくには、団体に入り横のつながりを大切にしていくことが大切であると感じる。若者が甲州市に戻ってきていただく取組みを行ってみたいらどうか。

- 委員長 どうやったら若い人が戻ってくるのか。
- 委員 都会での生活の声を聞いて呼び戻すこともやっている。
- 委員 高齢化の話があったが、高齢の方が増えてきた。  
 不動産においても、住宅の市場価格も下がっているが、土地を買えない人も増え、安い土地を探す人も増えてきた。そうになると、外食などでお金を落とす人も少なくなる。イベントなどで集客することは威力があるが、一過性のものであり偏りすぎることもよくない。いかに地元に戻ってきてもらえるか。若い世代が意見を言える場所をいかに与えられるか。世代交代に繋がるような計画にしたい。
- 委員長 北杜市も若い人が来るが、甲州市も若い人が来るイメージがある。その辺はいかがか。
- 委員 青年会議所は、メンバーが39名に増えており、ギネス大会等を企画して、今年もぶどうまつりで予定している。地域のためにやっていくことが団体を大きくしていくことに繋がる。
- 委員長 市外から見ると甲州市は可能性のあるまちだと思う。
- 委員 相談相手については、商工会が回答数で2番にきているので安心した。後継者がいないという問題があったり、創業支援については、創業支援計画を作り、ワンストップ窓口を設置した。待っているだけでなく、勝沼朝市で相談コーナーを設けて、こちらから声をかけ、情報を得るようにしている。先月からは、保証協会も併せて相談コーナーをやっている。事業者をつないでいくことも大事なのかなと感じる。これから商工会主体で「事業承継セミナー」を行う予定である。本地域は恵まれている地域である。地域資源が豊富である。商工会として発達支援計画を作成しているが、事業者への施策普及や経営指導、地域資源の活用事業が多く出てくるのが商工会の使命であると感じている。
- 委員 消費者は、買い物をするときは甲府や東京に行ってしまう。ぶどうのつるのかごは中国産のものは安いが国産品は高い。特色ある資源を発信していければいいと思う。

(3) ワークショップの開催について

- 委員長 ワークショップの開催について、事務局より説明を求める。
- 事務局 (資料4-1を用いてワークショップの進め方について説明。)
- 委員長 商工業を振興させるにはどうすればよいのか。事業承継などをやらなければいけないとのことは当然である。甲州市の地域をどうやって振興させていくかを真剣に考える。そのことがこれからの甲州市の発展に繋がる。そのためには、「地域ブランド」を考える。「地域のブランド」を創るという観点から考えると甲州市らしい振興計画になるのではないかと考えている。まず、「地域ブランド」というものを考えてみたい。  
 例えば、世界的ブランドのシャネルやティファニーなども、よく見るとパリやニューヨークと書いてある。「ブランド」というのは地域に根ざしている。甲州市のイメージをしっかりと発信して、ブランド化していくことが必要である。それと併せて個々の商品やサービスをブランド化していく。そのときには、地域イメージのブランド力を商品・サービスを使うこともできるし、商

<p>(4)その他</p> <p>4 閉会</p>	<p>品・サービスができることによって地域イメージも高まる。両方がそれぞれに好影響を及ぼし合うことが「地域ブランド」となる。</p> <p>「地域ブランド」を創るには、軸が必要である。そこから色々な商品が発生する。商品が出ることによって甲州市を知ってもらえることになる。ワインを東京で売ると、甲州市を東京の人に知っていただけることになる。そのワインが美味しければ甲州市はいいところだなと思ってもらえる。そして観光で訪れる人が増えると、宿泊や飲食店でお金が落ちていく。様々な波及効果が見込まれる。さらに観光に来て、甲州市を知ってもらえると、住むようになってくれて、産業が栄えていく。甲州市には魅力的な地域資源が豊富にあるのでやりやすいと思う。何か軸を作って、最終的に甲州市に住みたいと思えるような仕組みを作ろうというのがワークショップの目的である。地域を活性化するために地域のブランドを整理して、それを皆さんで育てたり、使って新しい産業を起こしていけるようなことを皆さんで真剣に考えられると甲州市はさらに発展していく。そのために、ワークショップを開催して皆さんの意見を取り入れられるといいのかなと思う。</p> <p>○（ワークショップへの参加のお願い）</p> <p>○事務局（閉会の辞）</p>
<p>会議資料</p>	<p>1 （次第）甲州市商工業振興計画策定委員会第2回委員会次第</p> <p>2 （資料1）甲州市商工業振興計画策定委員会委員名簿</p> <p>3 （資料2）甲州市商工業振興計画策定スケジュール</p> <p>4 （資料3）甲州市商工業振興計画策定に関する事業者アンケート調査結果報告書</p> <p>5 （資料4-1）ワークショップの進め方</p> <p>6 （資料4-2）地域ブランドの定義</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>産業振興課 商工担当</p> <p>TEL 0553-32-5092</p>